

**令和 3 年度第 2 回誰もが共に暮らすための市民会議 議事録****(会場・書面開催)**

会場開催日時：令和 3 年 1 2 月 1 7 日

書面会議期間：令和 3 年 1 2 月 2 1 日まで

**配布資料**

- 1 令和 3 年度第 2 回誰もが共に暮らすための市民会議 次第
- 2 資料 1 令和 3 年度第 2 回誰もが共に暮らすための市民会議 資料
- 3 資料 2 令和 3 年度第 2 回誰もが共に暮らすための市民会議 意見シート
- 4 資料 3 令和 3 年度第 1 回市民会議アンケート結果
- 5 資料 4 令和 3 年度第 1 回誰もが共に暮らすための市民会議 議事録
- 6 令和 3 年度第 2 回市民会議アンケート

**1. 開会****(事務局)**

皆様大変お待たせいたしました。お時間となりましたので、「令和 3 年度第 2 回誰もが共に暮らすための市民会議」を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、市民会議にご出席くださいます。誠にありがとうございます。

私は、本日司会を務めます、障害政策課の増田と申します。どうぞよろしくお願い致します。

なお、前方で要約筆記を行っておりますので、見えづらい方がいらっしゃいましたら、見やすい位置に移動していただいて結構でございます。

それでは、開会に当たりまして、障害政策課長の竹内より、ご挨拶を申し上げます。

**(障害政策課長)**

皆様、こんにちは。障害政策課長の竹内でございます。

会議の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、令和 3 年度第 2 回誰もが共に暮らすための市民会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

市民会議では、昨年度から、「コロナ禍での困りごと」を継続したテーマとして取り扱い、皆さまから様々な事例について、生の声やご意見を直接伺ってまいりました。

現在、オミクロン株の影響や、危惧される第 6 波への備えなど、コロナ禍が長引く中で、障害のある方やご家族、事業所の職員の皆さまにも大きな影響が続いていることと存じます。

今回は、コロナ禍における新しい生活様式がきっかけとなり、さまざまな分野で新たな課題が生じてまいりましたので、その中でも特に、皆様の関心が高かったテーマや、生活に身近なテーマについて、皆さまから忌憚のないご意見を頂戴し、今後の取り組みに活かしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

#### (事務局)

ありがとうございました。

続きまして、座長をお願いしております、国際医療福祉大学の松永教授からご挨拶をいただきます。

#### (松永座長)

みなさんこんにちは。

ただいまご紹介に預かりました、国際医療福祉大学の松永でございます。

本日は午前中栃木県庁さんの会議を終えまして、その足でさいたま市にやってきました。

わたくし、実はさいたま市大宮区の住人でございます。たまたま就職だけ遠くの大田原にまいりましたが、子供の頃からずっと埼玉で育ちました。

本日は、このように活発に意見交換が出来る会議の座長を仰せつかり、大変光栄でございます。

私たちは、まだまだコロナの厳しい試練の状況下にあります。本日の皆様のご意見によって、よりよい生活を送るための知恵が、集められるものと大変期待しております。

以上簡単ではございますが、わたくしの挨拶と代えさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

#### (事務局)

ありがとうございました。

それでは、本日の会議資料について、ご説明いたします。

資料につきましては事前に、郵便でお送りしておりますが、6点ございます。

まず、1点目が「令和3年度第2回誰もが共に暮らすための市民会議 次第」

2点目が資料1といたしまして「令和3年度第2回誰もが共に暮らすための市民会議資料」、縦向きのホチキス留めの冊子の資料でございます。

3点目が資料2といたしまして、「令和3年度第2回誰もが共に暮らすための市民会議意見シート」。

4点目が資料3といたしまして、「令和3年度第1回市民会議アンケート結果」。

5点目が資料4といたしまして、「令和3年度第1回誰もが共に暮らすための市民会議議事録」でございます。

6点目が「令和3年度第2回市民会議アンケート」でございます。

なお、アンケートにつきましては、本日の市民会議終了後に、受付で回収させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

また、本日ご回答が難しい場合には、アンケート用紙の裏面にございますとおり、送付先への FAX やメール、さいたま市ホームページのアンケート回答フォームなどでもご回答いただけるようにしておりますのでご活用ください。

回答の締め切りは、令和 3 年 1 2 月 2 1 日の火曜日とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上 6 点が本日の資料となります。皆様、不足等はございませんでしょうか。

## ■令和 3 年度第 1 回市民会議のテーマに対する主な意見について

6 月に開催いたしました、第 1 回市民会議におきましては、テーマといたしました、「令和 2 年度達成状況報告書（案）について」、および「コロナ禍において生じた困りごとについて」皆様からたくさんのご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。

皆様からいただいたご意見を取りまとめ、7 月に開催いたしました、障害者政策委員会に報告いたしました。

皆様から頂いたご意見と、政策委員会委員の皆様からいただいた、ご意見につきまして、資料 4 「令和 3 年度第 1 回誰もが共に暮らすための市民会議 議事録」にまとめております。本日は、議題が多く、議論の時間を確保するため、ご意見の報告は割愛させていただきますので、後ほどご参照ください。

## ■テーマの説明について

それでは、本日のテーマについてご説明させていただきます。

「令和 3 年度第 2 回誰もが共に暮らすための市民会議 次第」をご覧ください。

本日のテーマは、3 つございます。

まず 1 つめが、「デジタルの活用とその課題について」、2 つめが、「障害者のスポーツ活動について」、3 つ目が「選挙における合理的配慮について」でございます。

本日は、事前に皆様から興味のあるテーマについてご回答いただいておりますので、共通のテーマについて議論出来るようグループ分けをしております。

それでは、議題の説明に移ります。

なお、ご案内する資料のページについては、ルビありの資料のページになります。

※以下、視覚障害者用ルビなし資料のページがずれる場合は、該当ページを記載。

## 障害者総合支援計画 デジタルの活用とその課題について

まず、1 つめのテーマは、「デジタルの活用とその課題について」でございます。

「資料 1 令和 3 年度第 2 回誰もが共に暮らすための市民会議資料」こちらの資料の 4 ページをご覧ください。

コロナ禍においては、市が実施したワクチン接種予約で、オンラインフォームを使用したほか、生活の場面においても、接触機会の低減等を目的としたデジタル機器や ICT の活用が進んでいます。

一方で、ICT を活用できる人と、そうでない人との格差、いわゆるデジタルデバインドが拡大しています。

これまでの市民会議においても、「インターネットを使えば、障害や年齢をキーにした検索機能などの充実も図れるので、もっと ICT を活用すべき。」といった積極的な ICT の

活用を進めてほしいといったご意見がある一方で、「通信機器に慣れている人と慣れていない人とで、情報取得等にかかる格差がなくなるよう、サポートしてくれる人材の育成などが必要。」といったご意見をいただいております。

そこで、テーマ1では、コロナ禍において「デジタルの活用が広まって良かった点」や、「デジタルの活用で困ったことや、課題を感じる点」を参考に意見交換をお願いします。

## 障害者のスポーツ活動について

続きまして、2つ目のテーマであります「障害者のスポーツ活動について」ご説明します。

「資料1 令和3年度第2回誰もが共に暮らすための市民会議資料」こちらの資料の6ページをご覧ください。

(視覚障害用ルビなし資料は5ページ)

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催により、パラスポーツに対する機運が高まった一方で、新型コロナウイルス感染症による施設の休止や、イベントの中止があり、スポーツ活動が行いにくい状況にあります。

ここで、話し合いの前提となる「スポーツ」の範囲についてご説明いたします。資料6ページの2段目の「「スポーツ」の範囲について」をご覧ください。

(視覚障害用ルビなし資料は5ページ)

まず、国のスポーツ庁の調査における「スポーツ」の範囲については、散歩や身体活動を伴うリハビリテーション等もスポーツに含まれます。

また、さいたま市のスポーツ振興まちづくり計画においては、競技スポーツ、レクリエーション（キャンプ活動やその他の野外活動等を含む）から、健康維持のための軽い運動（散歩やラジオ体操等）、さらに、日常の活動（徒歩や自転車による通勤・買い物等）までを含めた、様々な身体活動のことを「スポーツ」としています。

なお、資料に記載はありませんが、スポーツ庁のスポーツ基本計画では、スポーツへの関わり方として「する」「みる」「ささえる」の3点を挙げています。7ページ上段のとおり、(視覚障害用ルビなし資料は5ページ下段)スポーツ庁の調査による全国の現状については、「する」の点では、障害者のスポーツ実施率が低いこと、スポーツを行える施設や総合型地域スポーツクラブが少ないこと、「みる」の点では、障害の有無に関わらず、障害者スポーツの直接観戦の経験がある者が少ないこと、「ささえる」の点では、障がい者スポーツ指導者が少ないことが挙げられています。

ここで当課の取り組み事業について、ご説明いたします。

当課では、障害者に対する理解、障害者の社会参加、運動機会の確保を主な目的として、7ページ以降(視覚障害用ルビなし資料は6ページ以降)に記載のとおり、様々な障害者スポーツの振興事業を行っております。なお、東京2020オリンピック・パラリンピックに合わせて実施した「さいたまスポーツフェスティバル」につきましては、スポーツ担当部署において実施し、連携して当課も障害者スポーツの体験会に携わってまいりました。残念ながら、これらのスポーツイベントも新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっております。

そこで、テーマ2では、「「スポーツ」の実施状況について、また、スポーツの情報収

集を行っている手段について」や、「スポーツに取り組むにあたって、課題となる点について」、「参加してみたいスポーツ活動や、参加しやすいと思う機会について」の内容を参考に意見交換をお願いします。

## 選挙における合理的配慮について

続きまして、3つ目のテーマである「選挙における合理的配慮について」説明いたします。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、5月23日には、さいたま市長選挙が執行され、10月31日には、衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査が執行されました。また、来年には参議院議員選挙が予定されています。

今年度の投票所運営については、新型コロナウイルス感染症の影響により、ソーシャルディスタンスの確保や、感染症対策の徹底を図る必要があります、今までの運営と変わった点が多くありました。

10ページ中段をご覧ください。（視覚障害用ルビなし資料は8ページ中段）

選挙の実施にあたっては、介助が必要な方への対応をマニュアル化し、従事職員へ情報共有を図っております。

本マニュアルは、平成16年度に市内障害者団体へアンケート調査を行ったうえで作成し、その後、当課が作成している市職員向け対応要領「障害のある方に対する対応の基本」や、当事者からいただいた声をもとに随時更新をしているものです。

しかしながら、投票所において、配慮が不十分な点があった、ご不便をおかけしてしまったとの声もいただいている状況です。また、「意思表示が困難である場合であっても、家族の方が本人に代わって投票ができない」など、選挙の制度上の課題もあります。

そこで、テーマ3では、「コロナ禍における選挙の執行について、実際に投票に行って困った経験や課題と感じたこと」や、「選挙に係る合理的配慮の提供事例や、行ってほしい配慮について」の内容を参考に意見交換をお願いします。

以上が本日のテーマの説明となります。

なお、皆さんの協議の時間をなるべく多くしていただくため、詳細な説明はしませんでした。資料等を記載してございますので、各テーマごとに協議の参考としてください。

## ■市民会議の進め方

ここで、市民会議の進め方について、ご説明させていただきます。ページが戻りますが、「資料1 令和3年度第2回誰もが共に暮らすための市民会議資料」の1ページをご覧ください。

まず、①話すときは、会議進行役のファシリテーターの呼びかけによって話し始めてください。

②みなさんが発言できるように、1回あたりの発言は3分くらいを目安にお願いします。ただし、障害の特性にあわせて、特別な配慮が必要な方は、5分くらいを目安としてください。

③他の人が話しているときは、途中でさえぎらず、最後まで聞くようにしてください。

④話し合いの相手を攻撃したりせず、意見として受け止めてください。少人数意見を大切にしてください。

⑤特定の個人や団体の悪口や傷つけるような発言はしないようにしてください。

⑥みんなが発言しやすいような雰囲気になるよう心がけてください。また、限られた人だけが発言するのではなく、発言したい人みんなが発言できるよう配慮してください。

⑦個人的な内容についての発言は、個人情報やプライバシーを守るため、市民会議が終わった後に、個人がわかる形で、他の人に話さないでください。

⑧今回のテーマは3つございますが、テーマを絞って、重点的にご協議いただいても、3つまんべんなくご協議いただいてもかまいません。各グループごとに、ファシリテーターを中心としてご協議いただく内容をお決めください。

みなさんで、より良い話し合いを行い、会が実りあるものになるようにご協力をお願いします。市役所職員も各グループにお邪魔して、書記を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

話し合いは、15時20分までになります。そのあと、15分間の休憩を挟んで、15時35分から、ファシリテーターの方に、グループでのご意見を発表していただきます。

なお、本日は、ソーシャルディスタンスの確保のため、C～Eグループの皆様は、お手数をおかけしますが、第3・4会議室へ移動してお話し合いをお願いいたします。

休憩後は、再度、こちらの部屋にお集まりいただき、各グループ意見の発表となりますので、移動の際は忘れ物の無いようご注意ください。

また、各グループから挙げた意見については、模造紙にまとめ、会議終了後に会場前方に掲示いたします。会議終了後に時間を設けますので、記録が必要な方は撮影を行ってください。

それでは、C～Eグループの方は、第3・4会議室へ移動をお願いいたします。

## ■令和3年度第2回誰もが共に暮らすための市民会議における意見

### (1) デジタルの活用とその課題について

#### デジタル機器の活用が広まって良かった点

- ・コロナで外出は難しくなったが、家にいてもZoomで対話が可能になり、九州などの他の地域の人とつながることが出来るようになった。
- ・オンライン会議システムで新潟のヨガクラスに参加できるようになった。
- ・Zoomは距離に関係なく繋がれるところが便利だと思う。遠くで開催している講演に参加出来たり、事業所によっては放課後等デイサービスの訓練をやったりしている。移動の必要がないので、時間の使い方が広がったと思う。
- ・感染予防ができ、会場に出向かずに参加ができる。
- ・Wi-Fi環境などがあれば、どこでも参加ができ、Wi-Fiが無料の場合、時間の制約もない。
- ・ZoomやLINE会議の参加が可能と言う事がわかった。
- ・コロナ禍により、接触を避けるためのオンラインやZoomでやるという面については良いと思う。
- ・コロナ禍において対面のリスクを回避して他者とコミュニケーションが可能になった。
- ・Zoomなどでネットワークが構築でき、いろいろなことにチャレンジする足掛かりとなる。

- ・他者とのコミュニケーションの際に本来生じるはずの交際費および交通費等のコストを抑制できたこと。
- ・実際に交際するには、ややハードルが高い相手と気楽にコミュニケーションが取れるようになったこと。
- ・遠方の事業所とのやり取りが便利になった。
- ・移動の時間を相談の時間等にあてることができるようになった。
- ・視覚障害のため、慣れない場所で開かれる会議やセミナーなどへの参加は会場にたどり着くのに困難があり、通常より労力や時間を要してしまうが、コロナ対策で多くがオンライン開催となり、自宅からパソコンやスマホの Zoom などのアプリによって非常に気軽に参加出来るようになった。
- ・Web 会議システムの普及により、視覚障害者でも、事故や道に迷う等のリスクを負ってわざわざ出かけることなく、会議等に参加できるようになった。
- ・体調不良で会場に行けなくても、情報交換ができるので助かる。
- ・Zoom 等の使用により、時間的・距離的制約が無くなり参加が難しかった会議やセミナー等に参加することができ、情報を取得し、コミュニケーションを図ることができるようになった。
- ・移動時間がかかり参加出来なかった研修にも参加できるようになった。
- ・ハローワークにおいて求職者用のマイページを導入した。  
このページでは単に仕事を探すだけでなく、応募履歴や担当者とメッセージのやりとりをできるようになったので、ぜひ活用していただきたい。
- ・タブレットを持つようになって、手元ですぐにインターネットやメールができるので、情報収集や意思伝達がスムーズになった。障害のある人こそ活用すべきだと思う。
- ・イベントや講演会でリアルタイム字幕を提供できる「UD トーク（ユーディートーク）」アプリの活用により、耳の聞こえない人が手話通訳と字幕を選択できるようになった。耳の聞こえる人にとっても聞き逃した内容を確認できて便利である。
- ・紙の書類による手続きは自力ではできないが、国勢調査や新型コロナワクチンの予約はオンラインで行われ、スクリーンリーダが入ったパソコンまたはスマートフォンから自力で予約を取ることができた。
- ・これまで紙媒体であった資料等が電子媒体により配布される機会が増え、視覚障害者でもパソコン上で音声読み上げや拡大等のソフトを使い、自由に読めるようになった。
- ・デジタル機器の苦手な世代の反対により、機器の導入が出来なかったが、「感染予防」という名目のため、デジタル機器導入に踏み切らざるを得なくなったことが良かった。
- ・事業所での機器の導入に際して、感染対策という理由で補助金が出たこともありが良かった。
- ・ワクチンに関してはインターネット予約が出来ない人たちは「近くに手伝える人がいない＝感染リスクが少ない」となり、結果的にリスクが高い人たちが先にワクチンを打てることになったと思う。
- ・新型コロナウイルスの感染者数が爆発的に多かった時期に、三者面談を行う際、保護

者が Zoom を使えたので、安心して面談を行えたケースがあった。

- ・ LINE を通じて保護者とのコミュニケーションを取るケースも出てきた。LINE の方がレスポンスも比較的早いので助かっている。
- ・ ブログやライブ配信を利用する事で月に一回のお便り以外にも、事業所の様子を伝えられるようになった。
- ・ 若い聴覚障害者の場合は、字幕、電話リレーサービス、チャット機能などを使いこなすことができるので、便利になったと感じる。
- ・ 区役所からの手続き書類が自動更新になると助かる。
- ・ 郵送のほかにメールやラインで更新等の手続きを可能にしてほしい。

## デジタルの活用について課題を感じる点

- ・ Zoom は便利だが、立ち上げやログイン等のセッティングが難しい。
- ・ スマホは画面が小さく、指が乾燥している人は何度押しても反応しない。そのうち、余計なところを押して分からない画面に行ってしまったたりするので、高齢者には難しい。
- ・ 高次脳機能障害による記憶障害があるため、スマホなどは操作を覚えるのが大変。
- ・ 最近 Zoom でやりとりするケースが増えた。しかし、最初はその設定がよく分からず、なかなか使えずに困った。行政の側で使い方をあらかじめ勉強してもらい、障害のある人に対し、その使い方等を教えてほしい。
- ・ 通信手段や機器の使用方法がわからないと参加ができない。
- ・ 機器の利用方法を知っていることが参加の前提となるため、利用方法等について、訪問して教えるサービスの様なものがあれば、参加を促せるのではないか。
- ・ 知的障害があるのでデジタルの活用は難しい。
- ・ 本人がスマホを持っていないので、予約等は保護者の端末を利用している。親亡き後はどのようなになるのかが不安。
- ・ マイナンバーカードのポイントがもらえても本人の申請等が難しく、申請ができていない。
- ・ 利用方法が具体的に理解できたらと思いました。
- ・ 事前の準備の情報量が多く、全てを準備することが難しいことがあった。
- ・ オンライン会議等のソフトを相手方の使うものに合わせる必要がある。
- ・ （視覚障害の方）周りの人がデジタルに積極的で、スマホやパソコンなどでは音声読み上げの機能を使っている。音声読み上げの機能は、文章は読むが、画像の形式では読まないの、情報を得られないときや操作が出来ないときがある。障害者でも使えるように情報のアクセシビリティをしっかりとってほしい。情報のアクセシビリティがしっかりとっているサイトだと、ネットショッピングなども使いやすい。アメリカでは、政務は情報のアクセシビリティの機能が入っている製品しか使わないことになっているため、情報のアクセシビリティが広がっており、アメリカのサイトや製品は大変使いやすい。デジタルの環境を整備するときに、初めから情報のアクセシビリティをシステムに組み入れる必要があると思う。そうすれば、視覚障害の人だけでなく、誰でも使いやすいものが出てくると思う。
- ・ 視覚障害ではタッチパネルは使えない。更に、非接触型になってしまったので困って



いる。市報で「手続きはコピー機の端末で」と書いてあるが、コピー機は見えないので使うことが出来ない。セルフレジのお店では手伝ってもらうが、とあるチェーンのスーパーでお手伝いをお願いしたところ、すぐに対応してくれ、社内ルールで対応することになっているとも教えてくれた。店舗やその時の店員さんによるのではなく、ルールとして統一されているのでとても良いし、安心して買い物が出来る。タッチパネルにするのはいいと思うが、同時に、使えない人への配慮も考えてほしい。

- ・普段から使っているスマホでも、拡大鏡のように使えたり音声で操作可能だったりなど、便利な機能が備わっているのを知らないことがある。機械の機能を身近に教えてくれる人がいればいいと思う。
- ・電子決済が広まったことで、もののやり取りがなくなった。「お金と交換してものを買う」という概念が一部の発達障害や知的障害者はうまく捉えられない。
- ・お金の管理が苦手で、現金を使用目的毎に袋で管理をしている人にとっては、デジタル決済は大変だと思う。
- ・会計管理のアプリを使えば、ビジュアルとして使った額が出るので、上手くいく人もいるから、デジタルにはメリットもあると思う。しかし、便利に使えるかは、機能を知っているかどうかによってしまうので、ハードルもあると思う。
- ・カゴ、エコバック、杖で両手がふさがっていたのに、レジで手伝ってくれないコンビニがある。会社として配慮するように周知をしてほしい。
- ・ハローワークではデジタル化を進めているが、すべてをオンラインにするのではなく、特に障害者や高齢者に対しては直接対面でのやりとりも重要だと感じている。
- ・さいたま市ではデジタル環境が整っていないと感じる。  
例えば、公共施設においてWi-Fiがつながる環境がとても少ない。他市（八王子市）では障害者に対してタブレットの配布を行っている自治体もあるので、さいたま市でも行ってほしい。
- ・今年3月に発表された「さいたま市行政デジタル化計画」では、障害者向けの記載が無かった。障害のある人がデジタル化から取り残されないよう、市としてこの課題にもっと積極的に取り組んでほしい。
- ・デジタル環境の整備は行政が中心になって行っていくべきことであるが、障害のある人でも、まずはできる人から進めていくことが必要だと思う。
- ・視覚障害者については、音声読み上げ機能など、障害特性に応じた情報提供を行ってほしい。
- ・対面で表情がつかめないとやり取りが少なくなってしまう。
- ・新型コロナウイルスワクチン接種について、年齢ごとの一斉通知でなく、最終接種日の記録のデータをもとに、3回目の接種の通知が届くと良いと思う。
- ・デジタルの活用については、高齢の聴覚障害者にはなじみがなく、区役所支援課に行き、ワクチンの予約を窓口にて手続きをしたり、家族にお願いして手続きをする方が多かったと思う。
- ・ワクチンの予約を最初はインターネットやFAX送信だけで受け付けていたが、後に区役所内でワクチン窓口が設けられたのは良かったと思う。
- ・町の中でのデジタル化が進んでいる様子が伺える。キャッシュカードなど、使用開始に際しての手続きなど、高齢者、しかも文字の読み書きのできない聴覚障害者はつい

ていけない。

- ・テレビで見たことがあるが、外国で現金不可のところが多く、困っていたという報道があった。
- ・FAX できる場所がなくなったり、現金での買い物が出来なくなるなど、将来、困ることが発生するのではと危惧している。
- ・デジタルに慣れない方にも優しい街づくりをしてもらいたいと思う。
- ・スマホや光回線などのネットインフラの月額利用料金が高額なため、情報やポイントなどの生活のインフラに個人格差・不公平が生じる。
- ・リモートでの対話に抵抗を感じる人は、コロナの感染状況に応じて他者とのコミュニケーションが著しく減少するリスクを負うと思う。
- ・行政から市民へのサービスがスマホを所持していることを前提とするようになり、スマホを持っていない人が不利益を被る可能性がある。
- ・デジタル機器を活用しかねる方も多く、使い方になかなか慣れない人も多い。使いたくても使えない人も多い。
- ・市報さいたまでも、コンビニの多機能コピー機で住民票などを取得できるというが、音声ガイドや、自分のスマートフォンと連携して動作するといったアクセシビリティに配慮されておらず、デジタル化の恩恵を受けられないのは非常に残念。
- ・新型コロナワクチン予約サイトが、パソコンでは日時選択画面が音声読み上げに対応していたが、スマホでは音声読み上げに対応していなかった。
- ・例えば、銀行やコンビニに置かれた ATM は、現金引き出し・預け入れといった最低限の機能は備え付の受話器のプッシュボタンで操作可能になっており、振込などの複雑な処理はオンラインバンキングのサイトを利用して自分のパソコンからできている。
- ・ある回転寿司チェーンでは、自分のスマートフォンの読み上げや拡大の機能を併用して、アプリから商品注文が行うことができ、店内のタッチパネル端末を操作できない人にも自力で注文できるようになっている。
- ・行政サービスのデジタル化に当たっても、このような好事例を参考に、市のデジタル化計画にも触れられているように、障害にかかわらず自力での手続きが可能な仕組みを国や県とも連携して実現して欲しい。
- ・「さいたま市行政デジタル化計画」を見ても、アクセシビリティに関する記載がほとんどなく、デジタル化が推進される中で、視覚障害者のアクセシビリティがきちんと確保されるのか、疑問。IT 化にあたっては、IT 知識を持つ障害当事者の意見をヒアリングする機会を設ける等、視覚障害者のアクセシビリティが確保されるような進め方が必要だと思う。
- ・市においてもキャッシュレス決済の導入や、住民票等のコンビニ交付が実施されているが、視覚障害者が利用できる環境が整っていない。合理的配慮として、視覚障害者も利用可能な環境整備が必要。
- ・オンライン会議では、少人数では意見交換が可能だが、10 名近くになると意見を言うことが難しい。
- ・デジタル化により利便性が高まり、効率化が図られるというメリットはあると思うが、人手不足という理由でのデジタル化であれば、本来の福祉のあり方の後退が心配。

- ・相談支援に関してはコロナ禍ということでオンラインの面談や会議が認められているが、感染症が収束したのちも継続して認められなかったら、導入したものも無駄になってしまう。
- ・苦手な世代は Zoom、LINE 等よりも機器に対するアレルギーがあるので「使わなくてもいい」となったときに情報格差が生じる。
- ・スマホを使えない、情報の検索の仕方がわからない人はどの世代にもいる。そのような人たちにどのように情報を届けるかが課題。
- ・市でもホームページで様々な情報発信してくれているが、ページが多く、なかなかほしい情報に巡り合わない時がある。文字、単語が違っているとページが見つからない。あいまい検索ができない。福井県立図書館の「覚え違いタイトル集」のような対応が本のタイトル以外でも必要。
- ・通所施設利用者の新型コロナウイルスワクチンの接種予約において、保護者がデジタルを活用して、単独で予約を行ったケースは少なく、施設職員や相談支援専門員が代行しているケースが多かった。
- ・高齢の保護者にはデジタルはハードルが高い。
- ・飲食店（回転寿司店など）の案内、セルフレジが、音声案内がメインの場合は、聞こえない人は操作に戸惑うため、必ず文字とセットで出してほしい。店員が会計操作するが、支払いのみがセルフのレジは、聞こえる者でも操作に戸惑う。聞こえない人なら、なおさら戸惑うのではないかな。
- ・スマートフォンやタブレットは、様々な申し込みがネット経由になっており、操作が複雑。これまでは、クレジットの申し込みなどは紙ベースだったものがタブレット入力に変更されているものが多い。高齢の聴覚障害者は大変。
- ・さいたま市長の記者会見は、YouTube 配信をしているが、高齢の聴覚障害者はほとんどデジタルの活用ができない。できれば、YouTube 配信でなく、テレビ放送（さいたま市のチャンネル）をつけてほしい。
- ・ショッピングなどに購入または注文する際に、キャッシュレス決済（Pay Pay など）を求めた場合は、聞こえない人のスマートフォンやタブレットを持っている場合は、登録する前に、インストール方法などのやり方がわからない。
- ・コロナワクチン接種のインターネットに予約する前に、説明文が多くて日本語が読めないために、インターネットの方法がわからない。わかりやすい日本語で説明があれば、インターネット予約しやすいと思う。
- ・冷蔵庫やレンジなどの電機機器は、ほとんど音声での案内や通知だが、聞こえない人はわからない。例えば、冷蔵庫のドアを開けたままの場合、音で知らせている。聞こえない人はとても不便。
- ・ワクチン接種予約の際にサーバーが混みあっていてなかなかつながらなかった。八王子市は接種日を割り振って予定が合わない人だけに変更できるようにしていたが、その方が混乱が少なくなるのではないかなと思う。

## （２）障害者のスポーツ活動について

さいたま市スポーツ振興まちづくり計画における「スポーツ」の実施状況について  
情報収集を行っている手段について

- ・パラリンピックでブラインドサッカーを観戦したが、目が見えていない中でも選手が華麗に動いていて、とても興奮しながら観戦できた。
- ・新都心で毎年開催されているツールドフランスのレース前に、2人乗り自転車、片足で運転できる自転車等パラスポーツのイベントや紹介を実施しており、パラスポーツに直接的に興味を持っていない人にも、関心を持ってもらえるいい機会になっていると思うので、今後も実施してほしい。
- ・学校の運動会などを見ると、障害の重さによって、運動する子としない子がはっきり分かれてしまっている。それぞれの能力に応じて、本人が持っている能力をより高められるように支援していく必要があると思う。
- ・支援学校で支援を受けられていない子がいるので、教員だけでなく積極的に地域の人に声をかけるなど、周りとの協力が必要であると感じる。
- ・運動会で実施しているマラソンであれば、全員が完走できるように皆で時間をかけて各自のペースで運動している。
- ・障害者であっても、高齢者になっても、自分からやろうと思えば何でもできる。
- ・昔スポーツを始めようとした時、障害者のスポーツチームや教室がなかったため、地域のママさん達と一緒にスポーツをしていた。
- ・障害者のチームがなかったため、周りの障害者に声をかけ自分でチームを作って活動している。積極的に行動することが大切。
- ・県内で行われている障害者スポーツ大会に参加したり、高齢者になってから、全国大会に自ら応募して出場したりした。
- ・市報や施設からの案内。
- ・市HPやちらしなどを参考にしている。
- ・ホームページにて情報収集している。

## スポーツに取り組むにあたって、課題となる点について

- ・コロナ禍において、スポーツができなくなった。スポーツの範囲が散歩なども含む広い範囲となっているが、外にでて動くこともはばかれる。コロナウイルスの影響と連動して生活のリズムが不安定になるなど、自由にならずストレスを抱えている。施設利用者のストレスを和らげる方法を考えている。スポーツに限らず、ストレスや不安を軽くできるのか。スポーツよりもコロナウイルスを起因としたストレスや不安の方が大きい。
- ・日常の活動も運動に含まれているが、コロナウイルスの影響で制限があり課題に感じている。
- ・スポーツの場所、機会、チームなどの絶対数が少ない。健常者に加わるのも難しい。一人でスポーツに出かけられれば良いが、行けない人はどうしたらよいのか。スポーツ実施場所でのトイレなど支援者の確保が難しい。スポーツのできる障害者はごくわずかである。健常者、障害者問わず社会資源や福祉施策の充実と合わせて考えていくべき。
- ・精神障害者の場合、服薬等によりスポーツが苦手な人が多い。コロナ禍で在宅勤務が多くなり、働きやすくなったが、「体を動かす機会が減った」「通勤が困難になった」などの課題もある。

- ・ヨガサークルの参加者が、コロナ禍でオンラインでの実施となり、ネット環境が整わず参加できなくなった例がある。
- ・スポーツにおいて、競技を広めていこうとしているのか、散歩のような日常生活としてのスポーツを広げていこうとしているのかで変わってくる。散歩であれば近くの公園でもできるが、コロナ禍で行きたい場所、やりたいことが制限されてできない。
- ・市のふれあいスポーツ大会は様々な障害の方がスポーツを1日楽しめるよう工夫してやっていることに意義があるが、コロナ禍で中止となってしまった。出かけることのためらいや行動に制限があるため、制限のある中でも実施することは励みになる。まずは障害のある方にもスポーツを見て、理解して、体験することだと思う。
- ・障害者本人には支援者がいないとできない場合もある。支援者の方はとても頑張っている。支援者の苦労をもっと理解する必要がある。
- ・我が家には重度障害のある子どもがおり、現在特別支援学校に通っている。子どもがスポーツ系の部活動を行う際には、介助ヘルパーではなく保護者が付き添わなければいけないなど、部活動をする上ではいくつかの制約があるのが現状である。  
例えば、障害者スポーツ専門の指導員による部活指導が受けられる環境があれば良いと思う。
- ・スポーツを競技としてとらえると、ルールを理解が重度障害者にとっては難しく、参加が進まない。例えば、まずはトランポリンや水泳、登山など気軽にできることから始めて、その上で楽しむということが大切だと思う。
- ・利用者のスポーツ活動については、やはりルールの理解が難しい。また、活動が土日の場合、支援者（ガイドヘルパー）は行動の制約がある。
- ・コロナ禍となり、活動に参加する機会が減り、家での時間が増えている人が多い。
- ・相談員として、情報を得る方法や、発信の方法の機会の提供をどのようにしていけばよいか悩んでいる。
- ・運動をしたくても、運動するまでに越えなくてはならない壁が多い。ガイドを派遣することがまずネックである。
- ・特に高齢の障害のある方の運動不足者が多くいるように感じる。
- ・若い人には施設等から声をかけられるなど、スポーツをする機会があるが、高齢者になると声をかけられることもないため、自分から動かないと機会を得ることが難しい。
- ・どこかの団体に所属していれば、行政からの情報を得る手段も多いと思うが、所属していない個人までは届いていない。
- ・学校に通っている間は、スポーツをする機会が自動的に設定されているが、卒業後は機会が激減してしまう人が多い。
- ・全体的に、情報を得る手段がより多いといいのではないか。
- ・会議などの開催にあたって、行政に関わりのある市民ではなく、行政とほとんど関わりのない市民の参加が増加するような工夫をすることで、市民に今以上に情報が回るようになるのではないか。
- ・いくら広報していても、受け取り手に届かないと意味がない。
- ・行政の情報を発信する幅を広げてほしい。
- ・障害のある方の情報が身近にあり、関心を持てる環境づくりが必要。

- ・障害者のスポーツ教室の募集が市報に掲載されていない。
- ・パラリンピックで裾野は広がっていないので、一般市民がパラスポーツを親しめるような機会が増えるといいと思う。
- ・障害の重い方は介助者がいないと参加できない。在学中のように知識のある方が介助者としての参加がないと参加が難しい。
- ・屋外での講座があると良いと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症のため、埼玉県障害者交流センターの利用者が少なく、交流できなかった。
- ・肢体不自由の障害者は新型コロナの環境下に慣れてしまい、疲弊していないかが心配。
- ・自分の周りは車いすを使っている身体障害者の人が多く、スポーツに興味がない人が多い。興味があったとしても会場までのアクセス、会場のアクセスが容易ではないので関わろうとしていない。  
さいたま市スポーツ振興まちづくり計画における「スポーツ」の実施状況はすべての市民等が障害の有無、および身体能力・運動能力の違いに関わらず「いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに関わる」事が出来る状態とは言えないと思う。
- ・市の体育施設等においても、視覚障害者に対して、スポーツの仕方や器具の使用方法を指導できる人材がいない。場所的にも誰でも参加できるような状態ではない。
- ・知的障害者にとってマラソンや水泳など個人スポーツを行う事にはとても困難が伴う。移動支援を柔軟に活用する事でこれらのスポーツを行う事が出来れば、誰もがよりスポーツに取り組めると思う。また、今はなぜかプールに移動支援が使えないようなので、スポーツの種目によって制限がかからないようにしてほしい。
- ・聴覚障害者の場合は、マスクが最大のコミュニケーション面での壁だと思う。コロナ禍ではやむをえないが、そこをカバーするコミュニケーション保障が必要と思う。また、聴覚障害者が口元が見えないとわからない場合があるということについての理解が広まるとよい。
- ・市民マラソンの3kmの部に参加しようと考えていたが、国際マラソンとなり、最短が8kmになってしまった。また、障害者の参加が車いすの部に限定されてしまった。
- ・スポーツの種類によっては、施設を利用するときは、聞こえる人との同席が求められる。
- ・トレーニングなどの説明や指導するあたりに、筆談の時間がかかるために、トレーニングを行う時間が制限される。できれば、施設職員の方は、手話を使ってほしい。

#### 参加してみたいスポーツ活動や、参加しやすいと思う機会について

- ・障害者週間市民のつどいでボッチャ体験をした。他にも岩槻で実施しているふれあいスポーツ大会でも体験した。体力を使うハードな競技ではないため、みんなで体験してみようということになった。
- ・ふれあいスポーツ大会は安心して楽しめるコンテンツになっていると思う。
- ・視覚障害者はSTT（サウンドテーブルテニス）をする機会もあるが、ガイドがいないとできない。コロナ禍では制限を受け大会も開催できずストレスが溜まる。

- ・ グランドゴルフに参加する人もいる。その人の状態に応じてスポーツに取り組むことはできる。
- ・ ウォーキングやボッチャ。
- ・ 地域に民間で障害者だけを対象としたスイミングスクールの時間がある。そういった社会資源が増えると良いと思う。
- ・ スポーツを振興する上では、競技性はなくとも、散歩もスポーツという意識に変えることも重要。
- ・ 町内のグランドゴルフ会場の公園の活用。
- ・ 障害者は配慮がないとスポーツを楽しめない。一方で健常者との交流も重要。バランスよくスポーツの機会があると良い。
- ・ 近所にある体育施設が障害の有る無しにかかわらず、自由に利用できる環境を整えること、これにより障害者も気軽にスポーツが楽しめると思う。
- ・ 手話応援に参加しているが、聞こえる仲間に手話の理解があればお互いにスポーツを楽しめると思う。
- ・ 普段は精神障害者の支援を行っており、他の障害の方々の困りごとを聞く機会となった。様々な障害のある方と一緒にいい形になるきっかけになればよいと思う。
- ・ スポーツ庁の定義では散歩もスポーツに含まれていることを最近知った。散歩ならば公園でもできると思う。
- ・ 人によって好みが違うが、何が好きかはやってみないと分からない。まずはスポーツをする機会をたくさん増やすことが大切。
- ・ 山登りなど普段の余暇活動であっても、体を使った上で何らかのゴールを設定することでスポーツとして楽しむことができると思う。
- ・ 周囲が盛り上げること、褒めることが喜びにつながる。支援者も一緒に楽しめる環境を作れば良いと思う。
- ・ 重い知的障害があっても楽しめるイベントがあれば、ヘルパーを頼んで参加させたい。
- ・ e スポーツは新しい社会参加の場にもなるため、推進することを課題にしてはどうか。
- ・ パラスポーツの中でブラインドサッカー、車椅子バスケットには興味があるが日程が合わず参加できていない。大宮公園にバスケットゴールがあったのを覚えている。そのような場所でやってほしい。
- ・ 健常者のチームと障害者のチーム、混合のチームが争う機会が欲しい。

### （３）選挙における合理的配慮について

#### 実際に投票に行き困った経験等や課題について

- ・ 期日前投票に行った際、音声による情報が多く、聴覚障害者への情報保障がされていなかった。混みあった会場内では、他の空いている会場をアナウンスしていたが、聞こえない人には情報が届いていなかった。
- ・ 聴覚障害のある自身の経験。投票に行ったとき、投票従事者から何か声を掛けられたが、わからなかった。聞こえないとわかった後は、その後、声を掛けられることがなく、結局何を言われたのか、わからずじまいであった。自身は後ろに並ぶ人に迷惑を

かけてしまうのではないかと、その場で我慢をしてしまった。そうした対応に意見を言う人もいるが、そういった場面を見た人が、障害者に悪いイメージを持ってしまうのではないかと懸念している。

- ・視覚障害者にとって、投票先を決めるための情報入手が困難。ポスターや選挙公報からは情報を得られない。選挙公報を音声化するかは、被選挙人が選択することになっていて、音声に対応していない人もいる。
- ・選挙スケジュールがタイトで、期日前投票をする場合に、選挙公報を確認することが難しい。
- ・国民審査の用紙は、罷免したほうがよい裁判官に○をつけるというものだが、これが難しい障害者もいる。
- ・精神疾患により入院している人は、外出して投票することがかなり困難である。投票率について調査をすべきではないか。また、知的障害者の入所施設に対して、投票を促す取組みが行われたのか。
- ・投票所にはコミュニケーションボードが置いてあると思うが、投票に従事する職員が全員そのことを知っているべき。また、一部の職員が障害者の対応をするというのではなく、全員が対応できるような仕組みが大切。
- ・投票時に合理的配慮がないことで遠慮や我慢があるというのは許されないこと。きちんとした配慮をするべき。
- ・障害のある人と障害のない人とで、投票率に差があるのか調査をするべきではないか。
- ・視覚障害の当事者として、夫婦で投票に行っている。点字投票は投票所職員の対応に時間がかかる。投票箱までの誘導などは毎回違う。複数選挙の場合、投票箱までの誘導において合理的配慮に欠けている。新型コロナウイルス感染対策はできているが、視覚障害者の誘導は配慮に欠けていた。
- ・障害者の知り合いで、実際に投票所に行った人がいた。事前に投票のやり方を細かく教えたそうだが、希望する候補者にきちんと投票できたかは不明である。そもそも各候補者のことがよく分からないので、誰に投票するかを決めることが難しい。
- ・いつも期日前投票に行っている。例えば駅前に投票所を設置するなど、アクセスの便利な所にもっと投票所を設置し、投票に行きやすい環境を整えてほしい。
- ・現状として付添者の代筆は認められないので、選挙管理委員がどの候補者に投票したいかを障害のある人から聞き取りして、代筆する仕組みになっている。実際のケースとして、あらかじめ候補者名の文字を図形として記憶し、それを指し示す練習をしてから投票に行ったという話を聞いた。
- ・障害者が投票に行かないと周囲の理解が進まないなので、まず選挙に行くことが大切だと思う。
- ・視覚障害のある方の選挙の立ち合いに行ったことがあるが、代筆をしている人の声が周りに聞こえてしまっており、プライバシーが保障されていないと感じた。
- ・点字ができる人は点字投票となるが、視覚障害のある方のうち、皆が点字をできるわけではないので、考える必要があると思う。
- ・会場まで行く手段がなく、行けない人が多い。
- ・施設に入所している人は施設で投票できているが、個人の人は行かない人も多い。



- ・投票に使用されている言葉は難しいものも多いため、言葉を理解できていない知的障害のある方もいる。
- ・知的障害のある方の中には、投票するということは理解できても、それがどう反映されているのか理解することが難しい人もいる。
- ・知的障害のある男性の中には、写真を見て好きな女性に投票している人も多い。
- ・介助として投票所に行っても中に入ることができず、選挙管理委員の人が「どの人にしますか」と聞いて投票することになるので、プライバシーがない。
- ・選挙に関心の高い人と低い人の差が激しい。
- ・1人で投票所に行くことが難しい人や、病状などによって意欲に差がある。
- ・投票に行くことに対して、腰が重くなってしまっている人への対応に苦労している。
- ・候補者がどんな人なのか分かってもらうために、候補者が施設に訪問し説明するといいのではないか。
- ・家から投票所までが遠く、投票に連れて行ったことがない。
- ・南浦和駅前の期日前投票所は駐車スペースもエレベーターもなく不便。
- ・手すりを利用する際に、消毒が十分か心配になった。
- ・選挙での候補者が、20代～70代の男女混合の比例代表選出であれば、それぞれの立場のお困りが国政に反映されるかと思う。また、障害のある方も国政に反映できると良いのかなと思う。
- ・友人から聞いた話では、待機列ができており、職員がスピーカーで何か話しているが何を言っているのが分からないまま、並んで、待っていたということがあった。聴覚障害者や耳の遠い高齢者などがいることを想定して、看板などに内容を書いて情報を提供して欲しい。
- ・受付にて、「耳が聞こえない」と身振りで表したら、マスクを外すか、早急に筆談、または聴覚障害者協会から提供したコミュニケーションボードを速やかに出して、対応してもらいたい。
- ・点字による投票を行っており、持参した携帯点字器を用いて記載している。我が家は比較的投票所にも近く、係員の対応も概ね適切と思う。
- ・投票場に行くまでが大変である。
- ・知的障害を持つ人々にとって、候補者のマニフェストの違いを理解する事はなかなか難しい。
- ・期日前投票所のスタッフが、コミュニケーションボードがあることを知らない。聴覚障害者が来た時の対応方法など引き継ぎがされているのか大変疑問に思った。
- ・半身麻痺があり、係員の方を借り、代筆をお願いした。
- ・事前不在者投票に、職員が障害者の合理的配慮が認識不足とみられる。  
合理的配慮の必要があれば、受付に言ってくださいと掲示板があり、実際に、受付に「耳が聞こえないので、筆談をお願いします」と手話で表現したが、受付担当は、筆談ノートを準備してないことがあった。選挙管理委員会と協議し、受付のあたりに、筆談ノートを準備してもらうようお願いした。
- ・通知した名前などの確認するために、口頭でなく、筆談の対応してほしい。
- ・小さいマスに文字が書きづらいので代筆をお願いしているが、最高裁の審査のように印をつけるだけとか、スイッチを押すだけになると助かる。

- ・期日前投票で区役所に行ったら、バリアフリーで補助の方が車いすを押して投票作業に付き添ってくれて助かった。

## 選挙に係る合理的配慮の提供事例や、行ってほしい配慮について

- ・投票所においては、障害者や高齢者など、誰でも同じ情報が受け取れるような環境整備が必要である。
- ・電子投票を行うべき。また、外出しての投票ができない方向けに、不在者投票の制度があることをもっと周知すべきである。
- ・投票行動に繋がる対応の好事例を収集してはどうか。
- ・精神障害や知的障害のある方自身が、投票することの意義や自身の考えに合った候補者に投票できるような取組みをするべきである。投票の前に、知人等の影響を受けて投票してしまう方も見受けられる。
- ・投票しやすい環境を備えた投票所を設置しなければならない。記載台や投票箱の配置により、通路が狭く、車いすが通れないようなところもある。障害者だけではなく、高齢者も同じだが、誰でも投票しやすい投票所をお願いしたい。
- ・東京都狛江市では、知的障害者向けの主権者教育を行っている。アメリカでは、候補者の訴えを学習するような取組みを行っている。投票率を向上させる取組みにもつながるので、行政を含めてやっていくべきではないか。
- ・動画によるPRなどもあるが、聴覚障害のある人にとって、字幕だけでは理解することが難しいという方もいる。手話は見える言葉であって、専門的な言葉などは手話のほうが分かりやすい。手話をつけることが大切。
- ・手話通訳者は、ひとりひとりに合わせて通訳をするので、安心して情報を受け取ることができる。目を合わせて話をすることができるし、わからないところはその場で聞くことができる。
- ・コロナ禍に限らず、精神障害者の場合、長期の入院体験などから、選挙に行ったことがない。選挙に接する機会もなかった。
- ・選挙に行っても何も変わらないと考える人も多い。
- ・知的障害の施設利用者へ国民の権利であり、投票を促すが、どの候補者、どの政党などの判断が難しい。情報が乏しく、選挙の広報や政見放送は理解が難しい。施設職員が「わかりやすい版」を、作成者の意図を排除した上で作成し、利用者に配布したり、掲示したりしているが、そもそも法律に抵触するのではないかと心配もある。立候補者や選挙管理委員会でわかりやすく広報してほしい。比例選挙や候補者が少ない場合は「わかりやすい版」を作成できるが、候補者が多いと対応できない。
- ・知的障害者の場合、権利があるので投票に行くが、誰に投票してよいかわからない。政策や政党の選択は難しい。解説しているが限界がある。
- ・知的障害者の親が、子どもの投票に同行。投票所には親も一緒に入れてもらえた。以前は入れてもらえなかったのが、少し変わってきたのかと思った。
- ・すべての投票所で障害者の子供と一緒に親を入れてくれるのかわからない。身内に限らず、同行する支援者も一緒に入れてくれると良い。
- ・以前は小学校の体育館で投票していたが、校舎の1階に変わった。段差がなくなり、配慮がなされるようになった。みんなの意見で変わっていくと良いと思う。

- ・介護者である親が高齢になり、一緒に行けないなど、投票所まで行く支援が必要な人もたくさんいる。障害が重い方の場合親が連れていけない場合もある。
- ・精神障害者の場合、外出が不安の場合もある。行き慣れない場所は不安もあり、他の投票の方法がある良い。
- ・精神疾患での入院時に郵送による投票を支援してくれる病院もあるが、住民票の問題などで通知が届かない場合もある。病院によっては熱心に支援してくれる病院もある。
- ・情報提供、投票所に行くまでの支援、投票所で合理的配慮など、みんなで声を出すことで変わっていくと良いと思う。行政だけでなく、候補者も変わってくると良いと思う。
- ・高齢者施設では、直接説明者が訪問し説明、投票するという場合もあるので、障害者施設でも同様にしてはどうか。
- ・会場に行くことが難しい障害者を集め、マイクロバス等で送迎してはどうか。
- ・視覚障害のある方のプライバシーが守られていないとの話があったが、前日などの混まない日程で集合し、視覚障害のある方のみが投票できる時間を設けるのはどうか。
- ・身体、知的障害者手帳所持者には、郵便投票をもっと簡単にできるようにしてほしい。
- ・自分で投票先を記載するのが困難な人には、早急に個別に選んだ立会人の介助を認めるべきだと考える。また、厳正な手続きを経たうえで立会人による代理投票の権利も認めるべきだと考える。
- ・現在、期日前投票を行う際には、「やむをえない事由」が必要とされるようですが、理由の如何を問わず期日前投票は認められるべきだと考える。
- ・期日前投票がやりやすくなって助かっている。
- ・今回の衆議院議員選挙でも、Yahooが「聞こえる選挙」のサイトを作成し、選挙公報の記載内容を読み上げ可能な情報で提供していた。紙の広報が読めない当事者はたいへん重宝した。
- ・さいたま市長選挙では、さいたま市視覚障害者協会から音声化した広報を送付してもらえることもあるが、音訳がない場合や、音声化されない候補者があったりもする。選挙情報の提供が民間企業のボランティアや、候補者の善意を必要とすること自体がおかしなことで、公的に保証して欲しい。
- ・投票場まで行くための援助が欲しい。
- ・投票場までの移動の支援は、選挙権を行使するために必要な合理的配慮だと思う。このため、地域生活支援事業の移動支援の利用者負担は、無くすべきだと思う。川越市では選挙の投票時に係る費用負担の免除を実施している。
- ・裁判官の国民投票のように候補者の名前が並んでいるところに1つ○を付ける事で投票が出来たら、文字が書けなくても投票が出来るのではないかな。
- ・聴覚障害者への対応を紙に書いたものを提示するなど、投票に来た人に情報を伝えることが重要。声で話していることを、きちんと紙に書くなどして伝えてほしい。こちらが困っている時だけ、筆談するのではない。聞こえる人たちに聞こえている案内の声を、文字で提示・掲示してほしい。
- ・受付や立ち合い人は、できる限りに、障害者の合理的配慮との学習してほしい。

受付のあたりに、筆談ノートを置いて、聞こえない人がみえたら、すぐに対応できるように努めてほしい。

### (事務局)

最後に、座長の松永教授に、まとめをお願いしたいと思います。松永教授、よろしくお願いいたします。

### (松永座長)

みなさんご苦労様でございました。

とても前向きで建設的なご意見を、多々拝聴いたしまして、わたくしも勉強させていただきました。

伺っていた中で、まとめということですので、申し上げたい点はいくつかございます。

1つはですね、日本政府が言っているような合理的配慮だけではなく、障害者差別解消法のなかで言っているような、差別の解消とか、合理的配慮をこうしましょう、なんていう代表的なものではなく、幅広く配慮が必要なんだと。

それもですね、1点目はこれは本当にどの領域にも関わっているなと思いました。

1点目は情報ですね。情報をいかに障害のある人たちに、きちんと伝えることが出来るか。

それもオケーション、さまざまな状況において、情報をきちんとお伝えすることが出来るか。その工夫が必要であろうということがよく分かりました。

日本政府も「こういう場合にはこうしましょう」「点字でルビをふりましょう」なんてやっています。それも必要ですが、それよりも、もっと一人一人の人にちゃんと情報が行き渡るようにする方法を考えないと、社会参加とか、機会の提供なんていうのは、繋がらないんだということがよく分かりました。1点目はそちらでございます。

2つ目でございます。さいたま市さんが、多分耳が痛いことと思いますが、行政も日本政府もそうですが、行政も手をこまねいている訳ではございません。おやりになっていることは、おやりになっているんですよ。

だけれども、その中で、さいたま市行政デジタル化計画の中に、障害者が入ってこないとか、おやりになっている中で、選挙のところで代筆の選挙の場所で、設定されているようですが、そういうことは周知してないとか、もう一歩進んだことが、必要ではないかっていうのがありました。

こういう情報とか行政との関わりっていうのは、やっぱり障害者への対応の議論、こういう場がとても重要であって、そこから救いあげていただいて、それを制度政策にちゃんとやっていただきたいというところが、本当に必要なんじゃないかと、わたくしは思いました。

お招きに預かって批判しているような感じでございますが、それが行政の役目であって、あともう1つ議員さんですね。市議会議員さんという方々も本当は一枚かんで欲しいなと思っています。

こういう状況にあるということを吸い上げて、「何が問題なのか」「何がニーズなのか」それを議員さんたちが、ちゃんと具現化して制度政策へ議会に提言する。

議員さんというのは、制度政策につなげる調整弁ですよ。そういう方々にも「こういう

ような課題やニーズがあるんだよ」「お時間あったら、こういう会議に足をお運びいただいて現実を見ていただきたいな」とわたくしは思いました。

大きくは以上３点でございます。情報のことと、さいたま市役所さんをお願いしたいこと、そして本当はこういう課題があるっていうことを、制度政策化する為に議員さんにも足を運んでいただきたいなと思った次第でございます。

どうも今日はいいい機会を与えていただいてありがとうございました。

#### **(事務局)**

それでは、以上をもちまして、「令和３年度第２回誰もが共に暮らすための市民会議」を終了いたします。

本日は、お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございました。

ご記入いただきましたアンケート用紙は、会場の出口付近で回収しておりますので、ご提出をお願いいたします。

それでは、お忘れ物のないよう、お気をつけてお帰り下さい。